

心と体と技術を鍛えてチームワークで試合を勝ち抜く

「野球は団体競技。試合ごとのミーティングでお互いに意見をぶつけ合い、切磋琢磨（せつさたくま）することで強豪相手に勝ち抜けるチームワークができてくる」と語るのは、乙女地区などの児童が

所属する少年野球チーム「乙女タイガース」の北眞誠監督（津志田区）。同チームは、7月開催の第32回九電旗学童軟式野球県大会で、見事に優勝。8月上旬に徳島県で開催された阿波お



乙女タイガース
Otome Tigers

〔乙女地区〕

少年野球チーム。日ごろの練習で培った強いチームワークで、阿波おどりカップ全国学童軟式野球大会などのたくさんの大会で優秀な成績を残す。

どりカップ全国学童軟式野球大会2014では全国でベスト8、8月下旬に福岡県で開催された第22回九州選抜（学童）軟式野球大会でもベスト8に進出しました。現在のメンバーは17人。北監督とコーチ2人の指導の下、白球を追いつ、バットを振る。

まずグラウンドにあいさつしてから練習は始まり、ランニング、キャッチボールや

バッティングと続く。練習後のグラウンドへのあいさつと整備も欠かさない。チームの指導方針について「グラウンドは、野球にとって大切なもの。野球の技術はもちろんです、感謝の気持ちを伝えられる人間味のある心を持ってたい」と語る北監督。「野球は心が安定してないと、プレーに浮き沈みが出やすくなります。心も鍛えて、試合で自分の持つ技術を最大限に引き出せる選手を育てて、勝つチームをつくりたい」と、児童たちの明日を見つめる。

キャプテンを務める福島駿くん（乙女小6年・上田口区）は、「練習では、自分から声を出してメンバーを元気づけることを心掛けています」とチームをけん引。「全国大会ではベスト8という結果で終わったので、九州大会ではたくさんの方に自分たちのプレーを見てもらうために力を尽くしました」と振り返る。「今後も一人一人がみんなのことを考え、心を1つにして試合を乗り切ることが出来るチームを目指したい」と目を輝かせた。

広報 こうさ

2014年（平成26年）9月号
通巻542号